

小倉城・小倉城庭園及び勝山公園・あさの汐風公園指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月8日(金) 14:00～17:45
- 2 場 所 西日本総合展示場新館 301会議室
(小倉北区浅野三丁目8-1)
- 3 出席者 (検討会構成員) 南構成員(座長)、植田構成員、薛構成員、
高取構成員、松木構成員
(事務局) 産業経済局観光部観光課長
観光課 観光企画係長及び職員
建設局公園緑地部公園管理課長
公園管理課経営係長及び職員
- 4 会議内容
- 事務局より当日のスケジュール、審査にあたっての留意点等を説明
 - 構成員の互選により座長を選出
 - 応募団体(北九州まちづくりパートナーズ共同事業体)による提案概要説明
 - 応募団体(北九州まちづくりパートナーズ共同事業体)への構成員によるヒアリング
- (構成員) 公園の広報宣伝費が年間1万円となっているが、小倉城の広報宣伝費に含まれているのか、それとも全く別で考えているのか。また、小倉城のオリジナルのお土産について、市内の菓子メーカーなどを巻き込んで、これまでと違うジャンルのお土産など今後展開していく予定はあるのか。
- (応募団体) 広報費については、小倉城で一括管理する予定である。お土産については「お土産協議会」というお土産開発グループを持っており、各種学校や団体と協議しながら開発を進めている。
- (構成員) 小倉城庭園の入場者数の利用適正密度は何人と考えているか。
- (応募団体) 通常時は最大で200人と考えている。
- (構成員) 小倉城の石垣の除草は年間何回か。また、石垣に生えているのは「草」なのか「木」なのか
- (応募団体) 年間2回除草している。生えているのは「草」である。
- (構成員) 石垣は緑が全くない方がよいのか、少しはあった方がよいのか、どう考えているか。
- (応募団体) 草が全くないのも不自然であり、自然な形がよいと思う。

(構 成 員) 歴史文化の目玉施策として「上野焼関係連携」「名鑑定士連携」「茶会再現」を挙げているが、5年間このテーマを継続するのか。この事業により毎年どのくらいの入場者数が増加する想定か。

(応募団体) イベントにより集客率は3割アップと想定している。

中核事業であり、5年間通じての柱となる基本的な計画である。時期的なイベントと通年でできるイベントと考えているので一括して答えることは難しいが、例えば上野焼については四半期に1回常設展示を行い、年に1回大きな展示を行うことを考えている。

(構 成 員) どういう層に来てもらいたいのか。

(応募団体) ターゲットは広く考えている。若い層は小学生から、北九州の文化を学んでいただきたい。コアなファンには現在歴史的な堀下げが不十分であり、もっと掘り下げて伝えていきたい。ターゲットを絞らず大きなテーマで何をするか考えていきたい。

(構 成 員) 回遊性向上に向けた4施設の連携について、広報戦略以外で、具体的な事例などをお聞きしたい。

(応募団体) 公園と観光施設を関連性のあるイベントでつなげていきたい。

「宮本武蔵と愛刀と刀剣」では、小倉城庭園で刀剣展示、勝山公園、あさの汐風公園でチャンバラスポーツを行うことによって、それぞれの施設に興味を持って、もっと深く知りたいということで次の場所に移ることを期待している。それが回遊性につながる。

(構 成 員) 「次の場所に移る」をもっと具体的に説明してほしい。

(応募団体) 会場ごとに広報を行いたい。スポーツに来た人が宮本武蔵を見に行くのは難しいので、興味を持った方を次につなげるようにしたい。

(構 成 員) 利用者・目的が違う4つの施設で、イベントのみでなく、こういった仕掛けで回遊性を向上させるかお聞きしたい。コロナ禍でイベントも思うように開催されない状況が続き、これからもそういうリスクが想定される中で、考えている取り組みなどあるか。

(応募団体) 回遊性を向上させる取り組みとして、歩いてまちを楽しんでいただく「ちずあそび」やナイトウォークなどを計画している。

コロナ禍の対応については、2年間経験し、今年も100日間休館しており、これまでの実績がある。また、気密性のある城・庭園とコロナ禍でも安心して遊んでいただける公園とは話が違ってくる。城・庭園はコロナ対策を十分徹底し対応している。

(構 成 員) 回遊性について4施設を見ると、あさの汐風公園が足を運びにくいという懸念

が残る。勝山公園とあさの汐風公園を上手くつなぐような事例があれば教えてほしい。また、今後4施設を一体管理することで新たな取り組みがあれば教えてほしい。

(応募団体) 2点実績があり、1点はクリーンウォークで、学生100名にあさの公園をスタートし魚町のアーケードを通り最終地点を勝山公園として、ごみを拾ってもらった。

2点目は小倉ハロウィンとの連携でスタンプラリーを行い、あさの公園もスタンプラリーの場所とし、回遊性向上を図った。今後も回遊性を高める事業を行っていききたい。

(構成員) 今現在1番の課題はなにか。また、今後5年間で最も大きな目標はなにか。

(応募団体) 1番の課題はコロナウイルス対策である。今後の課題は文化発信だと思っている。観光地なので娯楽を提供することが第一であるが、シビックプライド醸成のため北九州をわかっていただくため、今後5年間、歴史文化の発信に重きを置きたいと思っている。

○ 構成員は、応募団体（北九州まちづくりパートナーズ共同事業体）の提案概要説明と質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 応募団体（TEAM城下町小倉共同事業体）による提案概要説明

○ 応募団体（TEAM城下町小倉共同事業体）への構成員によるヒアリング

(構成員) 4施設の連携や回遊性を考えると、あさの汐風公園まで足を運びにくい。どういった形で足を運ばせるのか。また、小倉城のアンバサダーは何人いて、何人が本気で活動しているのか。

(応募団体) 回遊性については、一番重要なのは、情報の連動性だと考えている。そこでアプリ作成を予定している。アプリの利用によりニーズの把握にもつながる。あさの汐風公園については、芝生を美しく保つだけでも、人が集うと思う。また、若い人が集って、ダンスの練習などで使っている現状があるので、スポーツ関係のイベントを展開していく。そのようなことで、公園へ誘導していききたい。アンバサダーに関しては、30人程度で、基本的にノーギャラでお願いしている。なかには、ブロガーで月間PVが600万という方もおり、そういった方が発信するだけでも、効果が大きい。それぞれにファンがついているので、その方々が発信する都度、目に見える結果が出ている。今後も増やしていききたい。

(構成員) 小倉城の石垣に草が生えているが、管理の理想形として、どう考えるか。

(応募団体) 基本的には、石垣が草で覆われている状況は、写真撮る際、邪魔になるので、石垣が見える形にしたい。

- (構 成 員) 小倉城庭園の入場者数について、滞留者数は何名が適切と考えるか。
- (応募団体) 文化的な香りがある雰囲気も大切であり、あまり多いのは雰囲気がなくなる。同時期に 50 名程度が適切だと考えている。
- (構 成 員) 課題がたくさんある中で、所属されてる人数が少ないが、課題に対して、スタッフの人数配分をどう考えているのか、今後 5 年間に向けての考え方を聞きたい。
- (応募団体) 現在の指定管理の代表団体からの依頼で、2 年前に、指定管理業務を円滑に行うための最適人数について調査を行っている。今回の提案の人員体制はその結果に基づいて作成している。調査当時より、さらにDX、デジタル化も進むと考えているので、さらに、人数は絞っていける可能性があると思う。一方で、入場者の目標を 35 万人としているため、それに応じて最適な人数になるように計算をして提案をしている。基本的にはローテーションや提案している助っ人制度など、お互い助け合って進めていきたい。
- (構 成 員) デジタルツールの活用はコロナ対策にも効果的かと思うが、どう考えているか。一方で、アプリが使えない層に対するの対応はどうお考えか。また、地域の小中学校などいろいろな活動団体との連携についてどう考えているか。
- (応募団体) 小倉城もコロナで閉館し、売上には大きな影響を受けた。そこで新たに組み込んだのが、オンラインでの通信販売である。大変ご好評いただいている。今後も、オンラインなどがもっと一般化していきだろろうと思っている。アプリが使えない方に対しては、これまで通り、チラシなどアナログを用いても、当然やっていく。アプリは、ニーズが見えるので、そこは今後、投資すべき価値だと考えている。地元との連携については、地域教育は大事だと考えており、勝山公園、小倉城下町の素晴らしい文化や歴史を、懇切丁寧に、広めていく場が必要だと考える。また、写生大会などイベントも行っていきたい。いろんな専門家の方々たちも入っていただき、議論をしながら作っていく開かれた組織運営を、やっていきたい。
- (構 成 員) 人的基盤体制に関する事で質問する。リーダーシップを発揮されてる方々は、様々な立場で様々な事業や企画に携わっていると認識しているが、本業務に、十分な目配りをしていただけるのか、確認したい。
- (応募団体) 私が、全体責任者となる。地域の皆さんと一緒に最高の結果を出したいと思っている。小倉城を日本有数の観光地にすると、約束させていただく。観光のプロなどそれぞれのプロがおり、必ず成功させるために、取り組んで参る。
- (構 成 員) 小倉城庭園の目標数が 18 万人であれば、先ほどの、滞留数が 50 人というのは、

オーバーユースではないかと思う。入場者数を明確に想定し、最大人数を増やさないと目標達成は難しい。

(応募団体) 夜間延長や講座の実施分等、滞留数に見込んでいないものもある。また、修学旅行誘致などにも取り組んでいきたい。

○ 構成員は、応募団体（TEAM城下町小倉共同事業体）の提案概要説明と質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 応募団体（にぎわう小倉共同事業体）による提案概要説明

○ 応募団体（にぎわう小倉共同事業体）への構成員によるヒアリング

(構成員) 歴史・文化を提案されているが、小倉城、小倉城庭園についての歴史の部分でどういった方が監修するのか。小倉城エリアと勝山公園エリアの回遊性・連携については、あさの汐風公園までどうやって足を運ばせるような工夫をしているのか。

(応募団体) 歴史的な監修については、よみうり FBS 文化センターで歴史などを講師されていた方や、歴史学者の方とのルートがある。

あさの汐風公園との連携については、一つは、屋形船を紫川で運行して、移動手段として使って両方の施設を使っていただく、場合によっては都心部の方を商店街の方を歩いて動いていく、そういったことを考えている。もう一つは、ソフト面で、ギラコインの活用を考えている。

(構成員) 屋形船の場合、乗降場所や導線はどう考えているのか。

(応募団体) スタジアムの周辺など、これから検討したい。

(構成員) 小倉城の石垣は、草がない方がよいのか、あった方がよいのか、城の維持管理の理想系をどう考えているか。

(応募団体) 草は少々生えている方が、見た目はよいが、反面、その根がはびこり、安全面で、小さい豆石みたいなものを動かしたりする可能性もあるので、バランスよく、見た目と、石垣の構造を見ながらやっていきたい。

(構成員) 小倉城庭園の最大滞留者数について何名が適切と考えておられるか。

(応募団体) 小倉城庭園に関しては、書院棟部分は滞在 20 人程度が、限界かと考えている。池の周りについては、やはり 10 人から 15 人程度だと考えている。

(構成員) 公園へキッチンカーの提案があったが、キッチンカーの売上はどの程度見込んでいるのか。

(応募団体) 現状で平日の小倉城周辺では、市役所、リバーウォークからの利用者が主となり、5 万円から 10 万円ぐらいが一日の売上げと聞いており、同額程度を見込んで

でいる。

(構 成 員) 小倉城のプロモーションに関して、他地域との差別化や、小倉城ならではの魅力向上に関して、何か考えられていることがあるか。コワーキングスペースの提案は、公園にコワーキングスペースがあることによって、どういった波及効果を考えているのか。

(応募団体) 構成団体にテレビ局が入っているのので、ニュース関係取材などを活用したい。インバウンドについては、特にアジア系の旅行代理店等とも、ルートを持っているため、プロモーションをかけながら、集客を増やしたい。コワーキングスペースについては、作業ができるスペースを作り、仕事を外でできる場所を作ろうとしている。電源やW i - F i の整備をして、これまではあまり来なかった層を呼び込むことによって、利用者の層を増やしていきたい。井筒屋の前の船場広場の管理もしており、そこからの流れを誘導するためにも、勝山公園に拠点があると、駅、商店街、広場と公園の連携ができそうなので、実現したい。

(構 成 員) 小倉城に人を量的にどう集めるか。コンテンツとしてどういうものを展開していくのか、手法としてどういうものをとるのか。

(応募団体) 小倉城や庭園が持っているコンテンツと言われるものだけで、誘客を飛躍的に伸ばしていくことはなかなか難しいかもしれないので、周囲の例えば天守閣前の広場や、勝山公園でのイベントを通じて、認知度を高めて、そしてそこから、城や庭園の誘客につなげていきたい。天守閣前広場で行う落語や薪能などのイベントから城や庭園への流れを作っていきたい。

(構 成 員) 小倉城での宿泊の提案について、1人1泊2食つき5万円という利用料はどのような積算か。

(応募団体) 実際に城泊をやっているお城の相場から見積もっている。また、食事の単価や宿泊に必要な経費を見込むと妥当な額だと考えている。

○ 構成員は、応募団体(にぎわう小倉共同事業体)の提案概要説明と質疑応答を受けて、各自評価レベルを記入。

○ 構成員は、応募3団体の評価レベルを発表し、構成員全員で意見交換。

(構 成 員) Aはこれまでやってきた実績があるという点では安心して任せられる。お土産を開発している会社は一社に偏りがあり、もっと広い人達に関わってもらうのがよい。また、小倉城周辺などで、課題が解消できていない。長年管理運営してきて、課題が解決しておらず、結局、5年経っても同じ課題を抱え続けている気がする。次の5年も課題が解決できないのではないか。結局現状維持の中で終わってしまうのではないか。

Bは小倉城に対するこれまでの実績や新しい取組など面白いものも多く、小倉城の入場者増の意味では、効果を上げてくれるだろうというところは期待できる。ただ、小倉城への思いが強すぎて、公園の部分の提案が弱い。公園を一括管理する意味を考えたときに、この4施設を一括で管理するということでは少し物足りない。

Cは、他とは違うイベントをいろいろ提案されていて、他にないようなものであり、にぎわいづくりにはよいのだろうと思った。ただこれまでの実績が、公園の方が強く、公園に関してはすごくわかるが、小倉城や小倉城庭園に関するものが見えてこない。

(構成員) 市の作成した募集要項に基づいて、市の要求レベルを意識して、詳細に比べて提案を審査した。適性については、3団体とも適しているなら平等ではないかということで全部3にした。

(構成員) Aは、これまでの実績もあるという点、それぞれの管理運営の理念とか充実している点で、文句なく感じた。

Bの提案で言われていたデジタル化の推進で、コロナ対応についてAは基本的に感染対策をするにとどめていたが、Bは積極的にそれをプラスに生かしていくような提案なども行われ、非常に意欲的ではあるという点は評価できると感じた。一方でBは、思いが非常に強いことは伝わってきたが、5人体制など、これだけの規模の公園を運営できるのだろうかという点が少し心配なのと、他の委員も仰っていたように、緑の維持管理で、どういう方向性にしていくのか、また小倉城以外のイベントとどう有機的に連動していくのかが、もう少し見えるとよかった。Cは、やはり緑地の管理で、満遍なく地図を見せながらのイベントの活用とか、緑地の管理もうまくこなしている印象だが、このエリアは、北九州市においても重要な場所なので、その魅力により収益性をしっかり担保していく中で維持管理費もまわしていくような、アクティブな部分も、この場所には必要なのかと思う。BとCのよいところが、一緒になったらよいのかなと思ったが、まだどっちかというところまでいってない。

(構成員) Aは、今までの多くの課題をどうやってクリアにしていくか、方向性が見えてこない。現状維持でよいというのを感じた。課題の解決策が見えなかった。もったいなかった。

Bは、課題に対し具体的に方針を立て、解決策を模索しているのはよいが、多くの課題に対しできないことはないと列挙しているが、どういう優先順位でやっていくのか、実行プロセスがわかりにくい。いままでの硬直化している状態を突破するという意味では、市街地が大きく変わるチャンスを任せられるのはここかなと思った。ただ、実行力が本当にあるのかがわからない。

Cは、そつがなく全体的に平均点をとっているが、どこがポイントなのかがわか

りにくい。緑をポイントにするならば、緑をどうして活かしていくのか、また、その他の文化施設とどう融合させていくのか見えてこない。

(構 成 員) まずAは、皆さんも仰っているとおり、全体的に安定感があり、市内の多様な主体との協働も円滑に、安定的に実施できることが期待できるということで評価した。ただ大幅な現状からの向上とか変革は期待できないという評価をしている。Bは、非常に意欲的で熱意もあり、期待できる内容である。一方で裏付けに不安があるということと、属人性が全体的にも非常に高く、指定管理については持続可能性はすごく重要だと思っており、そういう部分で、ちょっと不安定感が強いかなと感じた。

Cは、公園に関する提案は、私の中で断トツによい提案だが、観光施設としての小倉城にあまりに意識がないというか、活用に弱さがある。そういう評価をした。

○ 構成員は審査項目ごとの議論を踏まえ、各自評価レベルを再考し記入。

(構 成 員) Bを候補者に決定した場合、全国的に展開されている企業がたくさん入るかと思うが、地域に根差した活動をされてきた方が逆に入れなくならないかという懸念がある。そうした問題がなさそうだったら面白い提案だなと思っている。

(構 成 員) Bをこの検討会として、市に推すということであれば付帯意見を付けることができる。付帯意見はかなり拘束力が強いもので、地域団体との連携について触れ、基本的にはそれを守るように意見をつけてはどうか。

(構 成 員) 地元の活動が途絶えないように。地域との連携が、Bは弱いところかなと思うので、そこもしっかりと連携するようにという意見をぜひ入れていただきたい。

○ 各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを、

1 指定管理者としての適性のうち、

(1) 施設の管理運営に対する理念、基本方針について

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、4

TEAM小倉城下町共同事業体は、4

にぎわう小倉共同事業体は、3

(2) 安定的な人的基盤や財政基盤について

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、4

TEAM小倉城下町共同事業体は、3

にぎわう小倉共同事業体は、4

(3) 実績や経験などについて

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、4

TEAM小倉城下町共同事業体は、4

にぎわう小倉共同事業体は、3

2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、

(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについて

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、4

TEAM小倉城下町共同事業体は、4

にぎわう小倉共同事業体は、4

(2) 利用者の満足度について

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、3

TEAM小倉城下町共同事業体、4

にぎわう小倉共同事業体は、3

(3) 指定管理業務に係る費用について

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、3

TEAM小倉城下町共同事業体、3

にぎわう小倉共同事業体は、3

(4) 収入増加に向けた創意工夫について

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、3

TEAM小倉城下町共同事業体、4

にぎわう小倉共同事業体は、4

(5) 管理運営体制などについて

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、3

TEAM小倉城下町共同事業体、3

にぎわう小倉共同事業体は、3

(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについて

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、3

TEAM小倉城下町共同事業体、3

にぎわう小倉共同事業体は、3

が妥当であると決定した。

○ 事務局は地元団体に対する優遇措置を反映させたうえでの合計得点を発表。

北九州まちづくりパートナーズ共同事業体は、74点

TEAM小倉城下町共同事業体は、77点

にぎわう小倉共同事業体は、72点

(構成員) 3団体に関し、それぞれ強みと弱みがあるということを、この検討会として評価する。

Aについては、適性についてはすぐれたものがあるし、Bに関しては、提案の有効性で、強みがある、なおかつBの団体については効率性についても、強みがあって、Cは、効率性は強みがある。有効性と効率性の両面で、最高点をと

ったBが、総合的に見ても、合計得点が最も高くなっているということ。以上をみると、この検討会としては、Bの団体「TEAM城下町小倉共同企業体」が、事業体が指定管理者としてふさわしいと判断するということが、検討会における最終決定としたいと思う。

それぞれ3つとも、強みが、一番が高く評価されたところもあるし、構成員の評価も、それぞれ1番をつけている委員もいるということで、いい提案を3団体からいただいたということかと思う。

「TEAM城下町小倉共同企業体」に対する付帯意見については、構成員から指摘があったように、紫川での取り組みなど、これまでの地域団体の活動ともさらに連携を深めながら、しっかりやって欲しい。指定管理者の変更で関係が切れてしまうというのが一番怖いかなと思っている。そうした地域団体との連携を築いてほしい、ちゃんと継続してほしい。他には、あさの汐風公園との連携をもう少し工夫してもらいたい。

(構 成 員) アプリを使っての連携があったが、ふたつの公園の連携が具体的にあがってなかった。全体的ににぎわいづくりの場としての公園という意識はあるのだが、市民の憩いの場とか、そういう意識が基本的に弱いというのは、「TEAM城下町小倉共同企業体」にあるように感じるので、なにがしかの公園に関する言及はあってもいいかなというふうには個人的には思う。少なくとも付帯意見として課すことによって、彼らとしても、そこを意識しないといけないというふうになるかなと。小倉城に対する思いが非常に高いので、ほかにも熱意を持ってやって欲しい。

○ 検討会としての検討結果（総合的な所見）について

審査の結果、「適性」では「北九州まちづくりパートナーズ共同事業体」が、「有効性」では「TEAM城下町小倉共同事業体」が、効率性では「TEAM城下町小倉共同事業体」および「にぎわう小倉共同事業体」が高い評価であり、「適正性」では各団体甲乙つけがたい評価となった。

今回の審査では、それぞれの団体の強みが明らかになったが、検討会としては、有効性と効率性で最も優れた提案を行い、総合得点が最も高い「TEAM城下町小倉共同事業体」が指定管理者候補としてふさわしいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう、市に求めることとする。

○ また、付帯意見として、以下を付すこととした。

- ・ 事業実施にあたっては、地元の各種団体と連携して取り組むこと。
- ・ 勝山公園エリアとあさの汐風公園との連携を工夫して実施すること。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。